「広島を訪れて感じた平和の尊さ」

北中学校　一年　川合　佑佳

私は、今回初めて広島を訪れました。広島へ訪れる前、原爆写真パネル展へ行き写真を見たりしましたが、原爆ドームを目の当たりにし、広島記念資料館の遺品などを見た時、この世の物かと想像を絶する物でした。当時の写真や遺品など、とても衝撃的な物ばかりでした。

原爆ドームは骨組だけが残り無残な光景でした。一瞬のうちに骨組になるぐらいの破壊力のある核兵器は、世の中にあってはいけない物だと強く思いました。

五月に、アメリカの現職の大統領オバマさんが初めて広島へ訪問され、歴史に残る年でした。オバマさんが折った折り鶴と手紙が広島記念資料館に展示されていました。オバマさんの手紙には、「私達は、戦争の苦しみを経験しました。共に、平和を広め核兵器のない世界を追求する勇気をもちましょう。」と書

20 × 20

かれていました。

次の日、被爆者の講話を聞きました。この話をしてくださった方は、14才で被爆したそうです。爆心地から2キロメートルはなれた自宅で原爆投下される瞬間を見たとおっしゃっていました。熱を浴びて水の中に手を入れてみたらふうせんのようにはれたとおっしゃっていたので原爆投下をとても怖く感じました。

私は、最初ここまで原爆や戦争について考えてはいませんでしたが実際に広島へ見学に行って「核兵器や原爆、戦争の恐ろしさ」と、「平和でいられる大切さ」をこの体験で学ぶことが出来ました。二度と戦争をしてはいけないと改めて思いました。今回の体験は、これからの私にとって良い経験になりました。今の時代に生きていることがとても幸せなことだと感じました。

20 × 20